

青森市平和団体から脱退



藤原 浩平

平和事業を切り捨てるな

藤原浩平市議は、予算特別委員会で核兵器廃絶を掲げる自治体が加盟している二つの団体から青森市が脱退していた問題を取り上げ、理由を質し、再加盟を求めました。市は「3月31日付けで財政事情を理由に脱退届けを出した。平和事業を見直し、新しい市長が就任した結果だ」として再加盟を拒否しました。

兵器廃絶の市民意識を国際的な規模で喚起する取り組みで世界平和の実現に寄与することを目的に広島市、長崎市が中心になり、1982年に設立された機構です。青森市は2009年に加盟しました。

日本非核宣言自治体協議会は、核兵器廃絶を求める内容の決議を行った自治体が連携し、戦争の惨状や、平和の尊さを伝える実施し、核兵器はいぜつと恒久平和の実現を広く呼びかけています。青森市は、2013年に

理由をなんと書いたのかとの質問に「財政事情のため」と答弁しました。市は90年に『平和都市宣言』をし、旧浪岡町は86年に『非核・平和のまち宣言』をし、両市・町が合併した後も宣言の趣旨にのっとり平和事業を実施し、鹿内市長時代に二つの組織に加盟し平和事業を充実してきたのにきわめて残念なこと」と指摘し見直しの理由について質しましたが、鈴木総務部長は見直した結果だとするだけでその理由を述べませんでした。

また、脱退届けにその影響を及ぼしていることも明らかになってきました。村川みどり市議は、市教育委員会に対し、子どものネットリスク対策について質問しました。成田一二三教育長は「児童生徒のみならず、教員、保護者、地域住民がネットリスクに関し共通認識を持つことが必要である。児童生徒には、記載内容によるトラブルの発生や長時間利用によりネット依存に陥る危険性を学ぶこと。教員に対しては、ネットに関する利用状況や問題点についての講座を全小中学校で実施。保護者に対しては、ネット利用に関わる危険性を理解してもらったうえで、小学校就学時健康診断や中学校入学説明会をも活用し、研修を実施する。教育委員会としては、

講座や学校訪問を通して、学校、保護者、地域住民が共通認識を持つてしまいう外斜視になる子が10％存在し、野球や卓球の空振りやケガも増えていること、さらには、長時間のスマホ利用によつて、脳の形や大きさが変わつてしまい、その結果、学習効果が消える脳に変質しつつあることも紹介しました。

20年後30年後の子ども達のことを考えると、まさに今こそ危機感を持って、ネットリスク対策に乗り出すべきであることを強調しました。



村川みどり

子どものネットリスク対策を

総務省の子どものスマホ所持率調査によると、高校生―90％100％、中学生―60％80％、小学高学年―30％60％、小学低学年―20％40％、4歳～6歳―20％40％、0歳～3歳―5％30％。右記のような結果となっています。さらに、世代ごとの利用率に関する調査によれば、10代の70％が無料トークアプリであるLINEを使用していることがわかりました。

このように、すでに子ども達達の生活の中にスマホが存在し、コミュニケーションツールとして定着している現実があります。たくさん情報に瞬時にアクセスし、さまざまなコンテンツにより余暇を楽しむことができる一方で、多くの研究結果から、子どもたちの目や脳に悪

影響を及ぼしていることも明らかになってきました。村川みどり市議は、市教育委員会に対し、子どものネットリスク対策について質問しました。成田一二三教育長は「児童生徒のみならず、教員、保護者、地域住民がネットリスクに関し共通認識を持つことが必要である。児童生徒には、記載内容によるトラブルの発生や長時間利用によりネット依存に陥る危険性を学ぶこと。教員に対しては、ネットに関する利用状況や問題点についての講座を全小中学校で実施。保護者に対しては、ネット利用に関わる危険性を理解してもらったうえで、小学校就学時健康診断や中学校入学説明会をも活用し、研修を実施する。教育委員会としては、

講座や学校訪問を通して、学校、保護者、地域住民が共通認識を持つてしまいう外斜視になる子が10％存在し、野球や卓球の空振りやケガも増えていること、さらには、長時間のスマホ利用によつて、脳の形や大きさが変わつてしまい、その結果、学習効果が消える脳に変質しつつあることも紹介しました。

20年後30年後の子ども達のことを考えると、まさに今こそ危機感を持って、ネットリスク対策に乗り出すべきであることを強調しました。

横山教育部長は「教育活動に支障がないよう部分的な補修で対応可能なものは、順次対応しているが、屋根全体の大規模な修繕が必要なる場合は、多額の費用を要することから、屋根材や防水の劣化の度合いを判断し、計画的に対応していきたい」と答えました。

森林伐採し太陽光発電



館田るみ子

「自然破壊やめよ」

天田内水道水源保護区域内の新城山田地区に大規模な太陽光発電所の建設が進められています。この地域には、45ヘクタールの森林が無届乱開発され裸地となったあとに24メガワットという大規模な太陽光発電所がすでに建設され、異様な景色となっています。その場所の西側に、今度は1

19ヘクタールの土地に太陽光パネルが敷き詰められることになりました。問題なのは、そのために、森林が伐採されることです。

前回の時も、住宅地まで土埃が飛散して夏の暑い時でも窓も開けられず、雨が降れば濁水が用水路や新城川に流れ込むなどの被害が発生しました。今回は2倍

しいどころか、自然破壊そのものではないか」と市の考えを質しました。小松環境部長は「約16ヘクタールの敷地に発電規模64メガワットの太陽光発電所を建設するもの。事業者が環境影響評価条例に基づいて、環境アセスをおこなった。

後に森林法に基づく林地開発などの許認可手続きを経て着工することになる。市としては、生活環境や自然環境が損なわれることがないよう、事業にかかわって参りたいと考えている」と答えました。

太陽光発電は投資の対象

館田るみ子市議は「地球温暖化防止のためには、森林の育成が大事なのに、広大な森林を伐採する太陽光発電は環境にやさ

以上、規模の林地開発と発電所の建設工事になります。

館田るみ子市議は「投資家と事業者との儲けのために、電気料金が高くなり、日本の原風景とも言える里山や森林が破壊されていくはずがない」と主張しました。

の投資対象として、発電の固定買い取り制度で「太陽光発電が増えれば増える程、電気料金が高くなつていく」と「東北電力など地方の太陽光発電の接続可能容量がすでに超過している」ことを示したうえで、「固定価格買い取り制度により、20年間の安定した収入を得ることが出来る確実性

山脇市議は、現在各連合町会地域で開催がされている、あおもりタウンミーティングについて質問しました。

山脇市議は「タウンミーティングとはそもそも普通地域に住んでいる全住民が参加でき、自由に政治家や執行部に対して意見ができるものである」という厳しい声も出ています。私も市の事業は、全市民に対して平等



天田内地区にすでに設置されている太陽光発電

天田内地区にすでに設置されている太陽光発電

天田内地区にすでに設置されている太陽光発電

天田内地区にすでに設置されている太陽光発電

天田内地区にすでに設置されている太陽光発電

天田内地区にすでに設置されている太陽光発電

天田内地区にすでに設置されている太陽光発電

廃棄物収集運搬



かさい育弘

作業基準の遵守を

6月15日開催された民生環境常任委員会において、かさい育弘市議は「一般廃棄物収集運搬許可業者に対し、収集運搬に係る作業基準の遵守事項において、収集運搬を行うにあたっては2名以上をもつて行うこととなっているが、このルールを守っていない許可車両が清掃工場付近で見受けられる」と指摘し「遵守事項を守っていない業者は、どのような対応をしているのか」と質問しました。

竹内環境部参事は「当該作業基準は、事故やけがの防止のほか適切な初期対応など、収集運搬時の安全管理を目的に市で定めたルールです。議員から指摘のあった許可車両について、当該業者からの聞き取りにおいて、作業時の乗車人員について遵守事項を守っていないことが判明したため、今後の遵守について文書で制約をさせました。さらに遵守状況の確認と適正運用を図ることを目的に、許可車両の抜き打ち検査を青森市清掃工場の近辺で5月上旬に初めて行い、今後も継続して実施していきます。」

とかさい市議の指摘に對し、早速に対応した状況を説明しました。さらに竹内環境部参事は「今後においても、許可申請時にはもちろんのこと、立ち入り検査や車両検査時、そして毎年度実施している許可業者講習会など、あらゆる機会をとらえ、遵守事項の主旨をきちんと理解し遵守するよう、一層の周知を図っていきたいと考えております。」と作業基準遵守の取り組みについて、市として前向きに取り組むことを答弁しました。



天内しんや

3年以上雨漏り13校 教育環境改善を

市内市議は地域住民から「浪岡中学校の天井からの雨漏りがひどく、劣悪な環境だから何とかしてほしい」という訴えを受けて、市内の小中学校45校、中学校19校の各学校長から毎年出される、学校施設営繕要望過去4年

分から長年雨漏りが解消されていない学校を調査しました。

横山教育部長は「教育活動に支障がないよう部分的な補修で対応可能なものは、順次対応しているが、屋根全体の大規模な修繕が必要なる場合は、多額の費用を要することから、屋根材や防水の劣化の度合いを判断し、計画的に対応していきたい」と答えました。

市内市議は「3年から4年連続で雨漏りの修繕を要望している小学校は、ほとんどが小規模な修繕では根本的な解決につながらず、重点的な修繕計画が必要だ」と訴え、劣悪な教育環境を優良な教育環境に早急に改善するよう強く求めました。



雨漏りしている校舎の屋根

市内市議は「3年から4年連続で雨漏りの修繕を要望している小学校は、ほとんどが小規模な修繕では根本的な解決につながらず、重点的な修繕計画が必要だ」と訴え、劣悪な教育環境を優良な教育環境に早急に改善するよう強く求めました。

市内市議は「3年から4年連続で雨漏りの修繕を要望している小学校は、ほとんどが小規模な修繕では根本的な解決につながらず、重点的な修繕計画が必要だ」と訴え、劣悪な教育環境を優良な教育環境に早急に改善するよう強く求めました。



山脇さとし

全地域で住民参加できるしくみを

山脇市議は、現在各連合町会地域で開催がされている、あおもりタウンミーティングについて質問しました。

山脇市議は「タウンミーティングとはそもそも普通地域に住んでいる全住民が参加でき、自由に政治家や執行部に対して意見ができるものである」という厳しい声も出ています。私も市の事業は、全市民に対して平等

山脇市議は最後に「今年度はすでに全ての町会から、開催の意向を聞いてしまっているのが今年度に関しては仕方がないが、来年度以降は指摘した点について改善するべきだ」と強く求めました。

